

幸区区民会議 第3回専門部会A「安全・安心・すこやか部会」

開催日時 平成18年11月27日(月) 午後6時30分～8時40分

会場 幸区役所5階第2会議室

参加委員

専門部会A委員 手塚善雄部会長、末兼卓副部会長、青山一、大久保芳城、
綱川幸子、萩原保夫、葉山直次

(欠席委員：安岡信一、小林豊、荒井康男)

傍聴 (宮前区役所総務企画課)成沢職員

事務局(総務企画課)大八木課長、高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員

(地域振興課)大場課長

(株)CSK

福田研究員

(以上 15名)

司会進行：手塚部会長

開会

本会議の情報公開に関する委員の了承

配布資料、次第の確認

平成18年川崎市10大ニュース選定アンケート協力をお願い

開会あいさつ(手塚部会長)

こんばんは。今日は欠席者が多いが、その分皆さんの活発なご意見をお願いします。

1. 報告事項

末兼副部会長が配布資料に基づき、第2回企画運営部会(11月2日開催)の結果を以下の5項目について報告した。

- (1) 第2回区民会議審議結果にもとづく幸区区民会議運営要領・条文の確認について
- (2) 区民会議に関する区民アンケート内容の検討について
- (3) 第2回区民会議審議結果を部会でどのように受け止めるか。また、今後の専門部会の進め方について
- (4) 第3回幸区区民会議の日程、内容について
- (5) その他
「部会への意見文書」の取り扱いについて
部会での地方自治法の配布について

2. 議題

- (1) 「地域防災活動の推進」第2回幸区区民会議を踏まえた検討

平成18年度幸区秋の防災訓練(11月23日・南河原中学校)の様子ビデオ上映

11月23日(木)に南河原中学校で実施された、「秋の防災訓練」の様子をビデオで見て、避難所運営について検討する上の参考とした。

手塚 ビデオを見て感じたこと、問題点などはあるか。

青山 自主防災訓練は年に3回実施しており、今回は秋の防災訓練だ。今までの防災訓練と違い、避難所立ち上げ訓練として3箇所を実施した。簡易トイレの組み立て方・使い方、応急給水拠点での給水、避難した人員の掌握などを訓練した。誰が避難し、誰が健康なのか等、実際にふさわしい訓練ができた。

避難所訓練は実際に合った内容での訓練が有意義だ。今回は、小公園に一度集まり、中学校に集結した。実際の避難所運営を想定して実施した。中学校の体育館に全員は入れないので、第一避難所も避難所として機能するようにしないと、実際の避難活動はできない。何箇所も避難所をつくり、それぞれが十分に機能し、弱者対応ができるようにしないと、実際の処置ができない。

末兼 以下の点を感じた。南河原中学校は入り口が狭いので、100人が集中したらどうなるのか。カギの管理はどうなっているか。避難所は体育館と校庭しか使えない。教育委員会からの指示で教室は使えない。本部をどうつくるか。駆けつけた人が最初に本部を立ち上げないといけない。自治会長が来るまで待っていないと本部ができないのではダメ。最初に来た人がどんどん本部を立ち上げ、本部長になる。避難者は来ていない人の方が問題。避難所に来ていない人の名簿作成をどうするか。応急訓練は赤十字のプロが三角巾の使い方等を指導していた。外傷者が対象になるので、血止めをどうするかなどの訓練が必要。倒壊した家屋からの引き出し方も重要。具体的な内容に関する訓練が必要だ。発電機や投光機。中原区の訓練に参加したが、発電機の使い方がみんなわからない。ガソリンは別の場所に置いてある。マニュアルを貼り付けておけば誰でも使える。トイレは問題が多い。炊き出し600人分を一度に作るは無理。どういう人に、どう配るのか。水だけでもいいのか。備蓄倉庫を誰がどう管理するか。勝手に持ち出されては困る。避難所と本部とのからみが出てくる。備蓄倉庫に何がどうあるかを運営委員会は把握しているのか。南河原公園から中学校まで行く通路は、震度6以上あったら、電柱や塀が倒壊して歩けない。道路の状況をどう連絡しあうのか。通路の確保をどうするのかを考えないといけない。

手塚 各町会ごとに決められた場所に集まり、南河原中学校に集合した。中学校に集まった人をどう処理するかが、避難所運営の一番の問題点だと感じた。一般参加者として参加したが、連絡内容が聞き取れない。情報伝達が不十分であり、命令系統がきちんとできていたのか疑問だ。一般の人はただ集まっただけで、何だったのかという声が上がっていた。いざというときに、どうなのかを具体的に考えないと、避難訓練を何回繰り返しても前進できないと感じた。

いざというときに、それぞれの地域で助け合うことがまだ出来ていない。班、組の中で、どういう救護体制を作るのか。誰が、誰を世話するのかなど、役に立つ訓練をする。特にマンションは、誰が住んでいるのかわからない。隣の人とも顔をあわせることがない。町内会の中で結束し連携しないと、いざというときに役に立たない。

避難所運営の問題について、何を提言したらいいかを具体的につめないと、本当に役立つ防災訓練に結びつかない。

綱川 避難できない人をどうしたらいいか。健康状態や障害の状況によって対応が異なる。幸区は4地区に分かれるので、各地区でやれるといい。三角巾を使った血止めの仕方など、練習できるとよい。震災以外の事故の時にも役にたつ。

高橋（事務局） 老人クラブでは三角巾の使い方を練習するか。

綱川 しない。交通安全で毎年訓練している。

青山 今回は、奉仕団の 4 人に来てもらい、2 時間かけて教えてもらった。一回では覚えられないし、情報が全員に伝わらないので、町会ごとにやれるとよい。

ガスと電気を切って避難したかも疑問。避難しない人もいるので、地域に何人か残る体制をどうするかも検討しないといけない。季節によっても違って来る。

町会で徹底的に議論し、その上で大きな避難訓練をする。

綱川 災害はどの程度のものが来るか未知数だ。訓練も大切だが、お互いに助け合う気持ちをみんなが持つことが大切だ。訓練に参加できない人でも、できることで助け合う。

末兼 区民会議の委員のネットワークをうまく利用する。町内会で検討しても、それは P T A、それは老人会となる。ネットワークを利用し、各避難所ごとに関係者が集まり、どういう形で協力できるのかを検討する。

手塚 本日欠席の小林委員のところでは、かなり細かくやっているようだ。町会によって、違いがある。

青山 どこの町会も 1 年に 1 回は避難訓練を実施している。町会でやり、合同でやり、幸区の全体にも参加する。

末兼 やってはいるが、具体的なネットワークがない。全員が集まって、自分たちのブロックにはこういう問題があるという共通認識を持たないといけない。

青山 核はできているので、それをどう結ぶかだ。

末兼 その場で指導してもらっても、じゃあ、怪我をした人をどこに運べばいいかがわからない。人手でリヤカーに乗せてどこまで運べばいいのかなど具体的に詰めるべきことがたくさん出てくる。

萩原 避難訓練と避難所訓練がある。河原町では避難訓練を実施した。以前、避難所訓練をしたこともある。教育長と市長が視察をした。住民が徹夜して宿泊訓練をした。

訓練のための訓練になっている。日常生活の中で災害があったときに、地域の中でどう動くかが見えていないのが実態だ。区で大きな訓練を 3 回やるのはいいが、身近な場、自治会単位で、年に何回かの訓練をやる。

民生委員や社会福祉協議会が参画していないという話がある。災害時に民生委員はどう動けばいいのか。今、幸区では、民生委員を町内会自治会の自主防災組織（以下、自主防）に入れてもらうように動いている。区民会議で民生委員は自主防に入れと言ってもらえると、区内 8 地区の民生委員協議会の会長が民生委員に話を持っていきやすい。

手塚 今欠けているのは、地域の中での訓練だ。互いに助け合う体制をつくる。町会単位の訓練をやるべきだ。実際に役立つ避難訓練にするには、自分たちで話し合い、問題を検討し解決しないといけない。

末兼 地元の避難訓練で意見を言っても、自主防は取組みが固定化していて、エレベーターひとつとっても、上の階の人をどう助けるんだといった意見に対応できない。意見を聞いてスキルアップしないといけない。

各町内会によって温度差がある。この温度差をどう埋めていくのか。団体が集まりネットワークで掘り起こすしかないだろう。

葉山 第2回区民会議で、「地域防災活動の推進」をA部会は提案した。具体的に地域防災活動の推進をどうするかは、今回の意見をまとめて次回の区民会議全体会議に提案すれば、わかりやすいのではないか。災害のときに避難するのは、中学校と小学校。幸区には22箇所の避難所が設定され、それぞれ避難所運営会議が設けられているが、どの程度機能しているのか。

青山 機能しているところもあるし、していないところもある。

葉山 これをきちんと機能してもらう。年一回の会合ではなく、四半期ごとに各避難所で運営会議を開催する。各避難所の統括者も決まってないのではないか。一中学校区に自主防は4地区ある。大きな災害が起きたら、小学校単位で避難する。その組織をしっかり立ち上げてもらう。そのためには、今出た意見を区民会議から提案し、検討してもらうとよい。避難所運営会議を活性化してもらうことが第一だ。

大場(事務局) 幸区の中で避難所運営会議をきちんと立ち上げているところがないので、今回モデル的に訓練を実施した。

大八木(事務局) 平成8、9年で避難所運営会議を設置したが、きちんとできた地区と、できていない地区がある。避難所の地域割りと町内会・自主防の地域割りとが一致しないところなどがあり、完全には立ち上がっていない。南河原中学校の訓練では、避難所となる3つ小中学校地区が共同で開催した。本来は避難所ごとにやる方が良いが、中学校をモデルにして立ち上げようと、全地区が集まった。今後は各地区で運営会議をつくりながらやっていきたいという思いがある。

大場(事務局) 3月に日吉地区で実施する。避難所運営会議を開催して、自分たちで考えてもらいたい。今回も啓発事業として実施し、みんなに考えてもらい、意見が出ることで、町会が独自に避難所運営会議をやることにつながればよいと思った。

避難所運営会議が何かわからないのも実情だ。今回、各町内から各班に1~2人参加している。その人が地元で報告し、考えてもらえるとよい。一步を踏み出し、みんなに考えてもらうことが重要だ。各町会の防災訓練は消火訓練や起震車体験で終わっている。市も補助金を出しているわけですが、とおりいっぺんの訓練になってしまっている。

自分たちの町会で避難所を立ち上げるときに誰が主導するのか。役所の職員が行って全部やるわけにはいかない。その辺の仕組みづくりをどうするかだ。

末兼 啓発事業といったが、その中で一番問題になるのは、ここの地区はどういう被害が出て、それに対して役所はここまでしかできないということを知らせることだ。ライフラインはとまる、役所は来ないということ、十分に納得すれば住民も動く。

大場(事務局) 今回も開催前に4回地元と協議をし、情報を伝えた。

末兼 役員だけでなく、一般の人に知らせることが必要だ。

大八木(事務局) 昼は住宅街に人が少ない。昼なら行政がすぐ来るかということ、大規模な震災等ではそういうわけにもいかない。昼間の住宅街は、高齢者とPTAの母親の方など職業を持たない女性が多く、そういう人たちだけで救助や避難所立ち上げができるか。役所が来られないとしたら、どこまでできるか、そういうことを課題として今回はやった。初めての試みであり、不十分な点もあったが、これまでの訓練の中では異色のやり方だ。今後は、この体験を一般の人にまで広げ、町会などの小さい単位

でも訓練を開催してほしい。

手塚 避難所運営会議はどんなことをやっているのか。

大場（事務局） 実際に避難所が立ち上がったときの運営をすべて担当する。寝る場所の確保、食料の配布、トイレの問題、ペットの対応などいろいろある。避難所に誰がいて、誰がいないかなど、避難所のすべてを掌握する。

手塚 各地区で避難所運営会議を開催し、具体的な検討を進めてもらおう。

青山 本当に動ける人だけで会議をしないと無理だ。

葉山 避難所ごとに、参加する町会の連携が必要だ。避難所を立ち上げ、指揮系統を決め、本部長を決めることがまず第一だ。それには、自主防が音頭をとるのがいい。

手塚 町会ごとの訓練に重点を置くべきだろう。今までの避難訓練で、こういう点が欠けているということがあれば提案したい。

末兼 ここで話し合ったことをどう各団体に納得してもらうか。それが区民会議の使命だ。

綱川 町会によっては関心の薄いところもある。そういう人にきちんと考えてもらう。一箇所だけ一生懸命になっても、やっていないところが困る。

手塚 こういうことをやるべきだ、やって欲しいと、やっていないところに呼びかける。

青山 区としての組織づくりだ。

手塚 区の組織はすでにできている。町会など小さい組織の中で誰が動くかだ。

青山 自主防は各町会に全部できている。その組織をきちんと活動できる組織にしないといけない。3年前に関東大震災 80 周年ということで、かなり心配している人もいる。自主防を地震に対応できる組織にしないといけない。

手塚 一般の人に浸透する組織でないといけない。そのためには、運営会議を頻繁に開催し、町会ごとにきめ細かい訓練を実施する。自主防があるといっても、どこまで浸透しているのか疑問だ。今までは上の方だけでやっていたが、下まで下げてやらないと役に立たない。

高橋（事務局） これまでの専門部会で、皆さんが所蔵する団体でこういうことなら、協力できるという意見があった。皆さんの団体でやっていることをどう広げていくか、各団体ができることは何なのかを、再度確認していただきたい。

萩原 自分たちの組織にどんな役割があり、何ができるのかを考えている。民生委員は、高齢者、一人暮らしの情報を把握している。障害者の情報もある程度は把握している。いずれも民生委員が足で集めた情報である。その情報を開示し、生かすことができるか。守秘義務があるが、災害時にそんなことは言っていない。行政が一定の線を引き情報を開示すれば、避難所に誰がいて、誰がいないといった判断ができる。避難所運営会議の中で、民生委員が役割としてできる部分が明確になるとよい。

葉山 要援護者がどこにどういるのかは、役所と消防が持っている。情報の開示は難しいということだが、いざ災害が発生した場合に、どうやって救うのかが問題になるので、その辺をどうするかだ。

大八木（事務局） 現在、市で、要援護者の名簿作りを検討中だ。すべての人を掲載するか、同意をもらった人のみを民生委員や消防団などの、地域の協力団体の方に開示するか。役所の中の議論も二転三転しているが、今年度中には方向を決める。

末兼 渋谷区は名簿を作る条例を作った。川崎市も行政として動いてもらうとやりやすい。

大八木（事務局） 渋谷区はまず手上げ方式でやり、それがうまくいかず、条例をつくった。川崎市は、まだそこまでいってない。すぐ条例というのは難しい。

末兼 市ではなく、幸区でできるとよい。

大久保 避難所運営会議をしていないところからやるのは良い。PTAとしては5中学、14小学校で、5ブロックある。町会の範囲とぴったりリンクしていないので難しい面がある。避難するときに、中学校に行けばいいのか、小学校に行けばいいのかという問題もある。

末兼 孫の防災訓練に参加したが、先生にはそういう意識がない。迎えに来られない子どもにどう対応するか。ガラスは強化ガラスでなく割れるガラスだ。子どもが学校にいるとき地震が起きたら、避難者が押し寄せる。そのとき子どもたちはどうなるのか。その辺をPTAで検討してもらいたい。

青山 今回の訓練は進歩だ。春は日吉で実施する。内容を十分に検討し実りある訓練にしたい。今回、日吉の人も参考のため17人見学に来た。

大場（事務局） あさって、日吉地区の会合があり、話をするということになっている。

（2）次のテーマの進め方（専門部会の進め方）について

手塚 第2回区民会議での部会説明が不十分だったという意見が企画運営部会で出た。検討内容がわかれば、自分の団体はこういう協力ができると提案できる。良い進め方はないか。

検討内容を具体的に報告する場があってもよかった。他の部会の内容がわからず、物足りないという印象だ。検討内容を知ってもらうには、どういう場が必要か。本日は踏み込んだ意見交換ができたので、次回の全体会では具体的に発表したい。

末兼 町内会の代表委員はB部会にいる。避難所運営について、こういう点で協力して欲しいという意見のすり合わせが必要だ。B部会の検討内容について、たとえば、コンサートに子どもを集めるのに、PTAが協力することも可能だ。テーマに関して協力できることの話し合いの場を作ってもらえるとよい。

高橋（事務局） 全体会の中で部会の検討状況を報告し、部会以外の委員会から意見をもらい、その上で最終的に提案をまとめた方がいいということですか。

手塚 部会でまとめたからそれでいいということにはならない。区民会議全体としてのまとめという形にすべきだ。全体会の意見を部会がどう取り入れるかという問題はあるが、参考になる意見ならうまく取り入れる方向でまとめる。

高橋（事務局） 次のテーマは健康づくりと高齢者の生きがいです。保健福祉センターの関係する課から、区の取り組み内容を説明する機会を設ける。資料は提案委員と打ち合わせしながら作成する。委員が参考資料を提供してくれてもいいし、委員との相談で、データなどをそろえる。各委員と資料の出し方について打ち合わせをする。

末兼 先に資料をもらい練らないと、意見がばらばらでまとまらない。次回のテーマについて、事務局と提案者ですり合わせが必要だ。資料を先にもらい、次回つっこんだ討論をしていければと思う。

手塚 次回は、少子高齢化、高齢者の健康づくり、生きがいづくりを提案した委員（手塚、綱川、小林、荒井）に発表をお願いする。

年度内に、あと何回部会を開催するのか。

高橋（事務局） 1月末に全体会がある。その後、2月から3月の間に部会を開催し、一定のまとめができるとうい。1年目のまとめを1月の区民会議でするのは難しい。4月に入ってでも、何がどこまでまとまったかを把握、整理できればよい。

3. その他

(1) 次の専門部会準備について

専門部会Bで提案された、委員推薦団体の概要・取り組みを各委員が説明することについて、意見交換を行った。

末兼 委員の推薦団体の概要は、部会員だけでなく全体会で全委員の資料を持ち寄り、連絡の取り方などを確認した方がよい。ネットワークの第一歩だ。

手塚 次回、まず部会Aの委員の活動内容を紹介し合おう。全体会でやるかどうかは、企画運営部会に相談して決める。

高橋（事務局） 紹介説明資料をコピーする必要がある場合は、当日の午前中までに事務局に提出してほしい。PR用チラシ等があれば、当日配布してください。

今回は、担当課にまず、市や区の取組み内容を話してもらい、その後、委員が提案内容を説明し、意見交換をすることでよいでしょうか。

(2) アンケート調査実施作業の状況について

アンケート調査の実施について、企画運営部会の検討結果を事務局が説明した。12月5日（火）から各戸配布し、1月9日（火）をアンケートの締め切りとする。

(3) 第3回区民会議日程等について

第3回全体会 1月25日（木）の夜間を想定。企画運営部会で最終決定する。
企画運営部会は12月13日（水）10:00から開催予定。

(4) 第4回専門部会の日程調査

平成18年12月18日（月） 午後6時から プレハブ会議室にて開催

以上